

せんべいの輪。
全国・全世界に広げたい、



「当社の魅力は、笑顔と個性」という言葉どおりの笑顔を見せる小野賢人さん(左)と高村里沙さん(右)。



酒田米菓株式会社

住/酒田市両羽町2-24
電/0234-22-9541
HP/http://www.sakatabeika.co.jp

今とても楽しく働かせてもらっています。そんな小野さんの仕事の中心は、商品の開発やプロモーション。企業ロゴなどをプリントしたオリジナルせんべいのノベルティー提案や、ワールドカップや花火大会などイベントに合わせた商品企画などを手がけつつ、せんべいのさらなる可能性を引き出すことにも挑戦中だという。「他社さまからの依頼で製造を請け負うOEMの仕事にも力を入れていて、ワンちゃん用のせんべいなど、今まで当社にはなかった分野の製品開発にも取り組んでいます。他業



代表取締役社長の佐藤栄司さん(上)の「いろいろなことにチャレンジできる人に入ってほしい」という言葉に、笑顔でうなずく2人(下)。

種との組み合わせで、せんべいの可能性が広がっていくのを見るのが、とてもおもしろいんですよね。



最後に、今後の展望について語ってもらった。「お客さま全員を笑顔にできるよう、1日でも早く仕事を覚えたい」と高村さん。小野さんは「どんどんアイデアを出して『新しいせんべいのかたち』をつくっていきたい」と言う。地域の魅力がまったせんべい。その力で、たくさん笑顔とコラボレーションを生み出していくのが、酒田米菓の仕事なのだ。(取材…酒田東高文芸部)

Cradle高校生編集部が行く
スゴハイ¹⁵ 特別編
SUGOI high school students in Shonai
Supported by
庄内広域行政組合、山形県庄内総合支庁

SUGOI REPORT スゴ★レポ

高校生編集部が
地元企業の魅力発見!



「せんべいこそ、自然豊かな米どころ庄内の魅力が凝縮されたものである」。この強い信念のもと、せんべいの可能性を引き出すべく、近年さまざまな取り組みを行ってきた酒田米菓株式会社。

工場を改修しての「オランダせんべいFACTORY」

開設は、代表的な取り組みの1つだ。全長395m、1階の工場部分では製造過程をじっくりと見学することができ、シヨップとカフェで構成される2階では、買いたいものはもちろん、せんべいづくりやオリジナルスイーツも楽しむことができる。宮城や秋田など県外からもたくさんの方が訪れるとい



カフェスペースでは、さまざまなご当地商品も味わうことができる。

うが、この春からシヨップやカフェのスタッフとして働く高村里沙さんは、この場所を訪れたことが入社のきっかけになったという。「みなさん笑顔で、とても楽しく働いていたのが印象的で。私自身、元気の職場で働きたいと考えていたので、『ここだ!』と思いましたね。」



自らが手がけた商品の開発ストーリーを語る小野さん。

入社2年目、営業企画担当の小野賢人さんは、進学で上京し3年ほど働きウターン。海外でも認められる商品力の高さに可能性を感じ、入社を決めた。「東京暮らしを経験して、それまで気がつかなかった地元の魅力がたくさん見えてきたんです。当社のことを詳しく知ったとき、『地元にもこんな仕事があるのか』と驚きましたし、

米どころという地域の強みを活かす、発想力。
先駆者として業界を牽引する、開発力。
地元企業の確かな力に導かれ、
新たな価値創出を目指す大人たちを紹介します。

鶴岡駅の北側、少し視線を上げると目に入る「高研」の文字。世界唯一の製造技術を持つメディカルプラスチックのパイオニアで、世界約50カ国に製品出荷実績を持つ、株式会社高研の工場だ。鶴岡を生産拠点に選んだのは創業者である医学博士、秋山太一郎さんの出身地だからだという。メインとなる事業は、医療機器事業、生体モデル事業、化粧品事業の3つ。入社3年目のお二人に、普段の仕事の様子について伺った。



当日はインタビューだけでなく、工場長の福嶋健治さんに工場などを案内していただいた。

「プロジェクトリーダーの補佐として、さまざまな医療機器の開発に携わっています」というのは、第一開発部の鈴木沙耶さん。切開後の気管や鼓膜など体内に入れる製品が多いが、医師の意見も取り入れて何度も改良を重ねてきた製品は装着時の違和感が少なく、評価が高いという。同じ製品でもサイズや硬さなどにバリエーションがあるのはもちろん、患者さんごとにカスタムメイドの製品も提供しているというから驚きだ。企画から完成まですべてのフェーズに関わり、申請書類をまとめたり、製品テストを行ったりするのが鈴木さんの仕事だが、日々新しいことができるようになっていくのがおもしろいという。「ペースメーカー



形状やパーツなど、設計意図について説明する鈴木さん。



「先輩や上司との距離が近く、相談しやすい」(梅木駿さん)、「地元なこともあり、波長が合う人が多く働きやすい」(鈴木沙耶さん)というお二人の言葉から、職場環境の良さもうかがえる。

地域の大先輩の想いを受け継ぎ
世界中のQOL※向上を目指す。

カーのような命に関わる製品にはまだ携わることができていませんが、そういう仕事も任せてもらえるよう、日々の業務を大切にしてスキルを磨いていきたいです。



「最初は感覚がつかめなくて大変だった」と手作業での製作の難しさについて話す梅木さん。

第二製造部所属の梅木駿さんは、教育用生体モデルの製造担当。注射のための腕、内視鏡挿入のための気管支、打診聴診のための上半身など、医療分野の

手技練習に使うモデルを手作業でつくるのが仕事だ。「本物みたいな肌の質感が当社の製品の特徴です」と教えてくれた。工場では、そのほかにもさまざまな生体モデルがつくられていたが、出産を控えた女性が沐浴などの練習をするためのモデル「コーケンベビー」は、重さや手触りはもちろん、首の



男女でつくりが違だけでなく、海外からのニーズに応えた欧米人顔の製品もあるという。

不安定な感じまで、まるで本物の乳児のようだった。梅木さんの目標は、つくれる製品を増やしていくことだという。「主に救急救命士の方々にご利用いただく、より



株式会社高研
鶴岡工場

住／鶴岡市宝田1-18-36
電／0235-24-3992
HP／<http://www.kokenmpc.co.jp>

シビアな現場向けの全身モデルをつくれるようになりたい」と力強く語ってくれた。
「患者さんの苦痛を和らげたい」。創業者の想いは故郷である鶴岡の若者たちへと受け継がれ、さまざまに形を成し世界中へと広がりに続けている。
(取材・酒田東高芸芸部)

※QOL:クオリティオブライフ。自分らしく生活できているか、心身は健康かなど、さまざまな観点から見た生活の質。

編集後記

今回の取材で最も印象に残ったのは、小野さんの「1度地元を出た人と一緒に働きたい」という言葉でした。聞いてすぐは「どうしてだろう?」と思いましたが、「広い視野を持って庄内の良さを外の人に伝えられるから」と聞いて、なるほどと思いました。私も広い視野を持ち、地元に貢献できる人になりたいです。(酒東・とまか)

さまざまな製品を見せていただき、生体モデルの精巧さにとっても驚きました。コーケンベビーを抱っこさせてもらったときには、生まれたばかりの弟を抱っこしたことを思い出したほどでした。また、開発途上国でのニーズが高い、子どもができる仕組みを解説する製品もあり、世界中の人々の幸せを支えている会社なんだなと思いました。(酒東・みつぎ)

編集部員&特ダネ まだまだ募集中!

「スゴハイ」の企画制作をやりたい高校生、「こんなスゴい高校生知ってる」「私、スゴいんです」などスゴい高校生の情報は随時募集中です。お気軽にご連絡ください。

ご応募・お問い合わせ先
Cradle事務局
info@cradle-ds.jp

編集・文=Cradle高校生編集部、工藤 拓也
写真=関 真由美
協力=酒田東高等学校